

平成25年度第1回青梅市協働事業市民推進委員会概要

平成25年7月5日
本庁舎5階503会議室
午後2時～午後4時

出席委員7人・欠席委員2人

1 委嘱状交付

市民部長より、委員に委嘱状交付

2 部長あいさつ

今年の4月から1人委員の定員を増やし、拡充ということで活動することで市長に認めていただきお願いすることになりました。それぞれのご専門のそれぞれの立場から積極的なご意見よろしく申し上げます。

3 自己紹介

各委員より自己紹介

4 委員長選出

川崎委員

5 職務代理者氏名

鈴木委員

6 報告事項

- ・配布資料の説明
- ・平成25年度青梅市市民提案事業の説明

配布資料への質問

委員：市民提案事業の進捗状況は

事務局：半年頃経過したら、経過報告をしてもらう予定。

委員：提案事業の審査に委員も参加することができるのか、聞くことはできるのか？

事務局：提案事業は、申請後に、市の方針と合致しているかどうか書類審査を行い、二次審査は推進委員会から数名審査委員を選び行っている。公開プレゼンなので見ることは可能である。

委員：提案事業は来年度にむけてどうするか。

事務局：今年度は、募集期間が短いとの話があったので、来年度は募集期間を長めにとりたい。

事務局：提案の数が少ないので、もっと応募していただき、よりいいものを選びたいと考えている。また、推進委員、市民活動団体の講習会を今までも行っていたが、今年度もう少し行っていきたい。財政的な問題や人集めの問題がわかるものを講師は未定だがやっていかなければいけない。

委員長：研修は大事なので市民団体や市民に対してしっかりしてやってほしい。

7 その他

委員長：意見交換を行いたい。

委員：今の財政状況をみると市民の力を借りてもっと効率的に、市の運営をしていかなければならないと言いつづけてきた。市民より市の職員がいかに協働を推進する熱意、取組みが1番大切だと思う。新しいテーマも大切だが今協働でやっていかなければいけない事業をいかに協働で効率的にやっていくかということを推進するのが1番である。

事務局：職員も頭ではこういうしくみとわかっている職員は多いと思うが、今手がけている担当している仕事を協働でと、なると職員もハードルが高い。

委員：委託で行う。協働であると夜に市民と会議を何回も行い大変である。そういうことで今までどおりのほうが楽の気持ちはよくわかる。

事務局：お金がないから協働、市民にまる投げでは決してないということだと職員もわかっている。

委員長：行政は縦割り、協働は横でつながろうという事業。行政は慣れていない事業だと思うので、それをチャレンジしているということが難しさでもあり価値のあることだと認識している。提案事業も2課が担当しているのもある、そこに価値があるのでは、つながりながらひとつの目的にむかっ

て動くことは大事なのでは思う。

委員：進捗状況はどうかとの質問に、半年に1回チェックするとの回答であったが、こういう事業を進めていくうえでは着手から完成までの工程表をきちんと作成してもらい、毎月そんな状況か書面で提出させるようにしなければまずい気がする。

委員：安全ボランティア、安全パトロール隊を青梅市が組織して、高齢者がパトロールしていく。つねに地域の安全という立場から力をそそいでいく、それが協働になる。ボランティアで人材を育成して、安全を確保する、地域を見守ることをしてほしい。地域にはすばらしい人材がたくさんいる。

委員：現在、協働事業にかかわらせていただいて、協働事業と助成事業はどちらがうか考えてみた。助成事業はやると決めたることに對して助成してもらい、報告をしていく関係だと思う。協働事業を通し、団体の想いと市として課題をかかえている課題にたいして、お互いどういう未来をめざしたらいいかということ話し、一緒に進めていく立場でたってもらえるのが助成事業と違うところと実感している。今、実際に会議をするために打ち合わせの時間を設けたり、議事録を共有したりしているの、そういう意味では担当課の人たちとのあり方を実感しているところなので、いい意味で市としての立場、市民としての立場でひとつの目的にいく道をさがしていくことを事業にかかわらせてもらい実際感じている。

この会議の回数と委員として何をするのか

事務局：平成24年度は6回、23年度は4回位。

役所の部長、課長の市民推進会議があるが、平成23年度は合同で視察研修に入間市と板橋区に行った。今年もそれくらいの回数を行いたい。

委員：視察はどこに行きたいとかだしていいのか

事務局：おおむね自由に意見をだしていただいてかまわない。

委員：市民推進委員会の協働事業の推進について推進会議で提言しているのか？また協働事業の実施結果を評価し推進会議に

報告しているのか？

事務局：推進会議に報告している。評価はみていただき、みなの意見を集約し推進会議に報告している。

委員：23年度協働事業の評価の推進委員会の会議を推進会議に報告しているのか？

事務局：3月に最後の会議をやり、その後報告している。

委員：推進会議では何か意見があったのか？

事務局：推進委員会での意見をふまえて、今年度はどういうふう形で行っていくのかとか、それなりに意見はでた。例えば推進委員の研修の強化、協働相手の団体もある程度力がないといい協働ができていないので団体に対する研修を行うべきとの意見があった。

委員長：昨年度95事業あった、それにたいしてひとつひとつの意見はだしきれないので、全体の意見もあったしピンポイントの意見もあり、それを会議に報告いただいたのだなと感じた。

委員：市民協働事業推進会議で協働事業の決定がされているのか？

事務局：提案制度については、行政テーマは推進会議のなかでテーマをしぼり決定しているので、そういう意味ではある程度は推進会議のなかで方向性を示してしる。

委員：市民から提案する場合は随時持ち込みできるのか

事務局：助成金がでる提案制度とは別なので、お金は出ないが協働事業やりたい場合には持ち込みできる。

委員長：ボランティア市民団体が70くらいで、高齢化しているのが事実と聞いている、将来を考えるとかなり危機的な状態で、市民パワーはそういうところでひろがっていくので、ボランティア市民活動センターのそこの充実は必要だと思う。若手がないのは活動場所がない、今のセンターは昼間型でうごいているので、やっぱり高齢者が使いやすい。板橋は8時から9時まで廃校を開放して行っている。若い人が参加できる場、拠点があるのは強いと思う。

委員：1回目の市民推進委員会が終わり、いろいろな話ができました。
住みよい青梅をめざして会議を進めていきたい。